

2025プラン

- 広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院 1
- 独立行政法人国立病院機構 広島西医療センター 15
- 社会医療法人清風会 廿日市記念病院 27
- 医療法人ハートフル アマノリハビリテーション病院 . . . 29
- 医療法人社団貴和会 佐伯中央病院 31
- 医療法人社団明和会 大野浦病院 33
- 医療法人あかね会 阿品土谷病院 35
- 医療法人みやうち 廿日市野村病院 37
- 医療法人社団親和会 やまと病院 41
- 医療法人北原会 敬愛病院 43
- 医療法人社団知仁会 メープルヒル病院 45
- 社会福祉法人三篠会 重症児・者福祉医療施設 原 47

令和7年7月9日

広島西地域医療構想調整会議

(別添)

J A 広島総合病院 公的医療機関等2025プラン

令和7年 4月 策定

【広島総合病院の基本情報】

医療機関名：広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院
 開設主体：広島県厚生農業協同組合連合会
 所在地：広島県廿日市市地御前1丁目3番3号

病床数	一般病床：531床	
施設の状況	建物延面積：33,761.24㎡	
主な公的指 定	・病院群輪番制病院 ・救急指定病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・ハき地医療拠点病院 ・災害拠点病院 ・臨床研修指定病院 ・DPC 対象病院 ・脳死臓器提供病院 ・地域医療支援病院 ・地域救命救急センター	
併設事業所	・訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所	
認定	・日本医療機能評価機構（区分一般病院 2 3rdG: Ver. 2.0） ・DMAT 指定医療機関（災害派遣医療チーム）	
主な施設 基準	・一般病棟入院基本料（7対1） ・超急性期脳卒中加算 ・診療録管理体制加算1 ・急性期看護補助体制加算(25対1) ・重傷者等療養環境特別加算 ・急性期充実体制加算 ・救急医療管理加算 ・妊産婦緊急搬送入院加算 ・医師事務作業補助体制加算1（15対1） ・療養環境加算 ・救命救急入院料1 ・特定集中治療室管理料3 ・小児入院医療管理料4	

許可病床数：531床（高度急性期 260床，急性期 271床，回復期 0床，慢性期 0床）
 ※稼働病床数も同値

（内 訳）

- | | | | |
|-----------------|------------|-----|--|
| 1. 高度急性期機能病棟83 | 西3階病棟（ICU） | 8床 | |
| 2. 高度急性期機能病棟89 | HCU | 8床 | |
| 3. 高度急性期機能病棟03 | 東3階病棟 | 46床 | |
| 4. 高度急性期機能病棟07 | 東7階病棟 | 52床 | |
| 5. 高度急性期機能病棟84 | 西4階病棟 | 36床 | |
| 6. 急性期機能病棟 | 西4階病棟 | 10床 | |
| 7. 高度急性期機能病棟85 | 西5階病棟 | 55床 | |
| 8. 急性期機能病棟05 | 東5階病棟 | 52床 | |
| 9. 急性期機能病棟04 | 東4階病棟 | 43床 | |
| 10. 高度急性期機能病棟86 | 西6階病棟 | 55床 | |
| 11. 急性期機能病棟88 | 西8階病棟 | 60床 | |
| 12. 急性期機能病棟87 | 西7階病棟 | 55床 | |
| 13. 急性期機能病棟06 | 東6階病棟 | 51床 | |
- 高度急性期260床，急性期271床

診療科目：

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、肝臓内科、膵・胆道内科、食道・胃腸内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化器外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科、

病理診断科
職員数：

職種	人数
医師	145
医師事務作業補助者	26
看護助手	28
看護師	624
管理栄養士	13
言語聴覚士	4
作業療法士	5
視能訓練士	3
歯科衛生士	4
事務その他	63
社会福祉士	4
准看護師	2
助産師	25
診療放射線技師	30
薬剤師	40
理学療法士	14
臨床検査技師	54
臨床工学技士	16
公認心理士	1
総計	1101

(令和7年4月1日時点)

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

○ 将来人口推計等

広島西二次保健医療圏における将来推計人口は、2020年の141,525人から2025年には139,271人へ、2040年には128,639人まで減少する。

また、65歳以上の高齢者人口は2040年まで上がり続けるが、75歳以上では2035年をピークに下がり始めると予測されている。

	2020	2025	2030	2035	2040
総人口①	141,525	139,271	136,359	132,801	128,639
65歳以上人口②	45,410	47,001	47,000	46,914	47,781
地域人口に対する割合(②/①)	32.1%	33.7%	34.5%	35.3%	37.1%
75歳以上人口③	22,841	27,635	30,046	30,247	29,143
地域人口に対する割合(③/①)	16.1%	19.8%	22.0%	22.8%	22.7%

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月推計)

○ 医療需要の推移

厚生労働省の令和2年患者調査による広島県の患者受療率と将来人口推計から試算した将来推計入院患者数の総数は、2025年以降も増加するが2035年をピークに減少に転じる見込みである。

広島西圏域 将来推計入院患者	患者推計(人/日)					増減(人)			
	2020	2025	2030	2035	2040	20-25	25-30	30-35	35-40
総数	1,820	1,953	2,057	2,137	2,134	133	104	80	▲3
I 感染症及び寄生虫症	12	14	15	16	17	2	1	1	1
II 新生物<腫瘍>	160	168	171	170	168	8	3	▲1	▲2
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	3	3	4	5	5	0	1	1	0
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	37	41	45	49	50	4	4	4	1
V 精神及び行動の障害	334	338	340	338	334	4	2	▲2	▲4
VI 神経系の疾患	167	184	195	204	203	17	11	9	▲1
VII 眼及び付属器の疾患	9	10	11	9	9	1	1	▲2	0
VIII 耳及び乳突突起の疾患	1	1	2	2	2	0	1	0	0
IX 循環器系の疾患	242	266	286	306	307	24	20	20	1
X 呼吸器系の疾患	89	99	108	120	121	10	9	12	1
XI 消化器系の疾患	66	72	78	80	79	6	6	2	▲1
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	8	8	9	11	12	0	1	2	1
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	100	109	116	119	119	9	7	3	0
XIV 泌尿路生殖系の疾患	73	80	85	90	90	7	5	5	0
XV 妊娠、分娩及び産後	20	18	17	17	17	▲2	▲1	0	0
XVI 周産期に発生した病態	7	6	6	6	6	▲1	0	0	0
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	1	1	1	1	1	0	0	0	0
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	12	14	16	17	18	2	2	1	1
XXIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	210	231	248	266	268	21	17	18	2
XXXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5	5	6	5	6	0	1	▲1	1
(悪性新生物<腫瘍>)(再掲)	142	150	153	151	149	8	3	▲2	▲2
糖尿病	20	22	23	25	25	2	1	2	0
急性心筋梗塞 ※	14	15	16	16	15	1	1	0	▲1
脳梗塞	88	98	106	114	113	10	8	8	▲1

患者数：患者調査の受療率(令和2年10月都道府県編閲覧第33表(その2))×医療圏内の人口で算出
※都道府県別の疾病小分類がないため全国データで計算

○ 医療提供体制の現状

【医療機関数・病床数(病院)】

区分	病院施設数			病院病床数			
	一般病院	精神科病院		一般病床	療養病床	精神病床	
広島西	13	12	1	2,483	1,127	880	476

※出典：「医療施設調査」(令和3年)

【医療機関数・病床数(一般診療所数)】

区分	施設数		病床数			
	有床診療所	無床診療所	一般病床	療養病床		
広島西	124	4	120	54	48	6

※出典：「医療施設調査」（令和3年）

○ 医療機能別の状況

地域医療構想による広島西圏域の必要病床数と令和3年度の病床機能報告を比較すると、高度急性期114床、急性期99床、慢性期449床、現状の方が多く、回復期は、280床少なくなっている。

また、レセプト算定件数による流入率・流出率が他圏域と比較すると高く、中でも慢性期の流入率と回復期の流出率が高い状況にある。

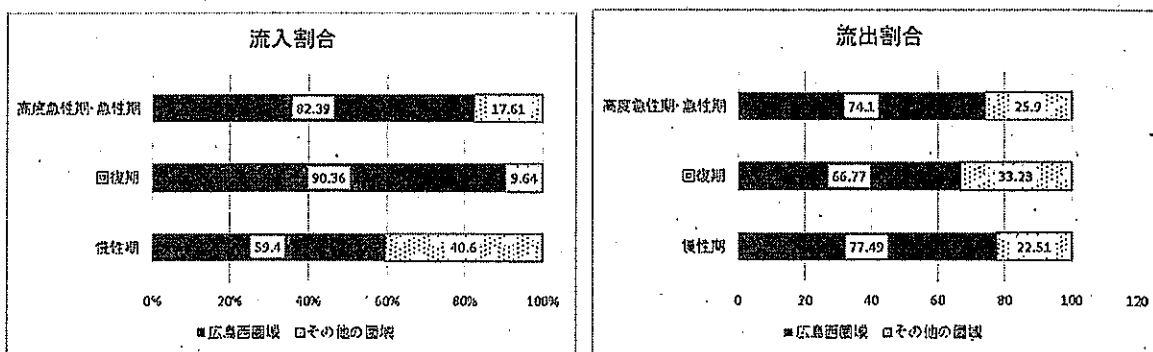
慢性期の流入率には、筋ジストロフィー患者や重度障害児・者を県内全域から受け入れている病床が約300床あることが影響しており、医療提供体制を検討する際にはこの点に考慮が必要である。

【機能別病床数】

区 分	必要病床数 (令和7年)	病床機能報告 (令和3年度) ※	差 引
高度急性期	156	270	114
急性期	410	509	99
回復期	515	235	▲280
慢性期	478	927	449
計	1,559	1,941	382

※報告後の転換等一部修正。休床18床を除く。

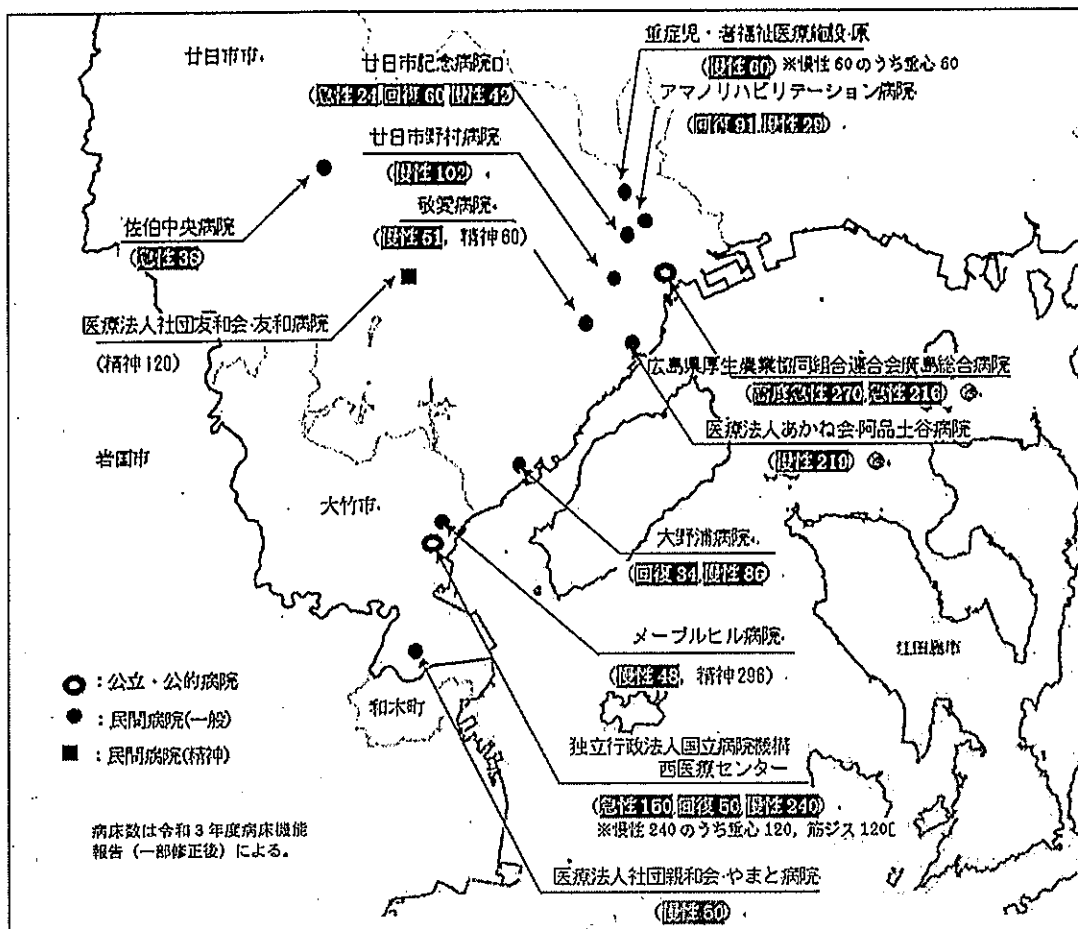
【流入・流出の状況】



流入割合は、レセプトデータにより広島西圏域に所在する医療機関に入院した人の住所地を医療機能別に広島西圏域とその他の圏域に分けたもの
 流出割合は、レセプトデータにより住所地が広島西圏域の人の入院した医療機関の所在地を医療機能別に広島西圏域とその他の圏域に分けたもの

医療・介護・保健データ総合分析システムによる分析（令和2年度データ）

【広島西保健医療圏の病院位置図】



② 構想区域の課題

○ 医療機能別の病床

高度急性期・急性期は、棲み分けが進んでいる疾病については周辺地域の医療機関と引き続き連携を進めるとともに、広島保健医療圏に新たな整備が検討されている「高度医療・人材育成拠点」の影響を考慮しながら、脳卒中領域など圏域内での速やかな対応が必須の高度医療や救命救急体制を強化する必要がある。

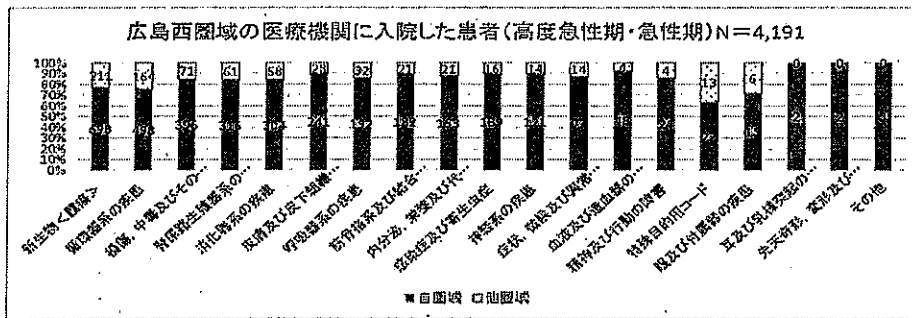
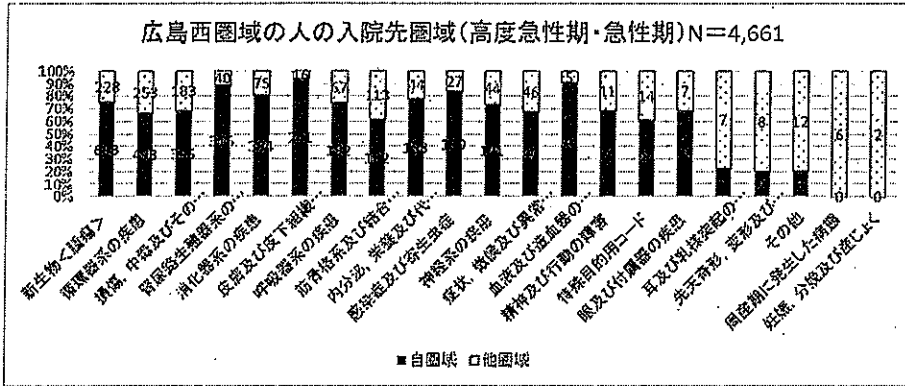
回復期は、広島西圏域の住民の入院レセプト4,014件のうち、広島西圏域の医療機関の入院レセプトは2,966件であり病床の不足が推測されることから、病床の確保が課題となっている。

○ 人材の確保

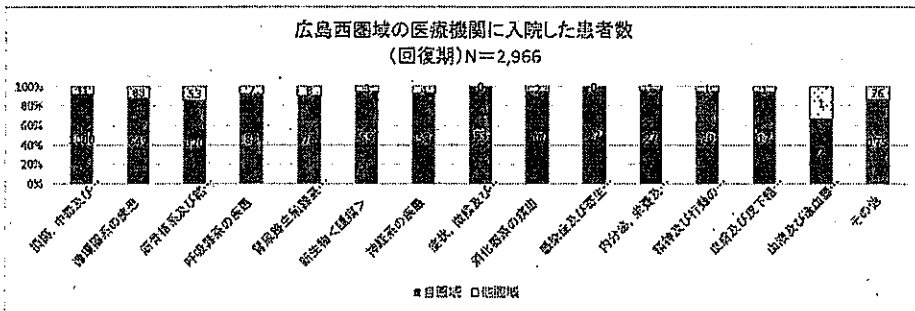
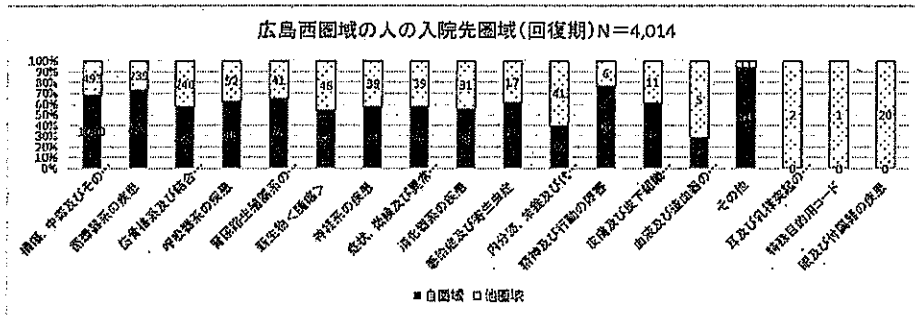
医療需要は2035年まで増加する見込みである一方で、生産年齢人口の減少に伴い医療人材の確保が困難になっている。

また、2026年（令和6年）から医師の時間外規制が開始され、医師の働き方改革への対応を着実に進める必要がある。

【高度急性期・急性期】



【回復期】



広島西圏域の人の入院先圏域は、レセプトデータにより住所が広島西圏域の人の入院した医療機関の所在地を広島西圏域とその他の圏域に分けたもの
 広島西圏域の医療機関に入院した患者数は、レセプトデータにより広島西圏域の医療機関に入院した人の住所を広島西圏域とその他の圏域に分けたもの

医療・介護・保健データ総合分析システムによる分析(令和2年度データ)

③ 自施設の現状

○病棟別の病床稼働（平均在院日数と稼働率）

1. 西3階病棟（ICU）	特定集中治療室管理料5	16.2日	66.3%
2. HCU	救命救急入院料1	3.1日	64.4%
3. 東3階病棟	急性期一般入院料1	12.4日	82.7%
4. 東7階病棟	急性期一般入院料1	13.1日	83.7%
5. 東5階病棟	急性期一般入院料1	12.4日	82.2%
6. 西8階病棟	急性期一般入院料1	14.2日	81.1%
7. 西7階病棟	急性期一般入院料1	11.7日	84.5%
8. 東6階病棟	急性期一般入院料1	0日	0%
9. 南4階病棟	急性期一般入院料1	6.8日	79.7%
10. 南5階病棟	急性期一般入院料1, 小児入院医療管理料4	7.5日	82.5%
11. 南6階病棟	急性期一般入院料1	12.1日	90.6%
12. 南7階病棟	急性期一般入院料1	14.2日	89.9%
			全 体 10.8日 70.0%

○時間外・休日・夜間診療実績

合計4,918名 ※加算算定ベース

（うち、廿日市休日夜間急患センター：内科3,669名 外科307名）

○救急医療

救急車受け入れ件数 令和6年度 5,026件（うち夜間休日搬送受入件数 3,422件）

時間外等加算割合（休日・夜間・深夜加算算定件数（初診）/初診料算定件数）16.6%など

○周産期医療

ハイリスク分娩管理加算 年間184件, 分娩件数 年間288件, 母体搬送受入件数 年間0件。

○小児救急医療

乳幼児休日・夜間・深夜加算算定件数（初診） 年間49件,

乳幼児加算初診料算定件数 年間670件, など

○自施設の担う新興感染症等対応

新型コロナウイルス感染症に関しては、致死率や重症化率が低いことから、感染症分類の変更後において、その重症度や入院主訴となるその他の疾患の状況に応じた対応をとることとしている。

○手術の実施状況（手術室にて実施）

平成29年度	5,723件	平成30年度	5,418件	平成31年度	5,513件
令和2年度	5,082件	令和3年度	5,118件	令和4年度	4,923件
令和5年度	5,230件	令和6年度	4,904件		

④ 自施設の課題

(1) 高度医療への対応

- ・当院は広島県西部最大の急性期総合病院であり、5疾病5事業において基幹病院、専門病院としての機能を果たしているが、精神医療については医師確保が難航していることから、安定した提供体制が難しい状況である。
- ・手術に関しては、コロナ禍において件数は減少しているものの、感染症病床の確保等で一般診療の制限が余儀なくされていることを考慮すると（実稼働病床当たりの手術件数に置き換えると）依然として高水準である。
- ・整形外科は脊柱・脊椎などの領域において広島県内でも圧倒的なシェアを占めており、廿日市市外からも多くの患者を受入れている。
- ・消化器内科は胃瘻に対する治療や内視鏡を用いた低侵襲な治療など、先進的な医療を提供している。

(2) 救急医療への対応

- ・地域救命救急センターとしての救急医療における地域貢献度は高い状況にあり、広島西医療圏の救急搬送患者の約6割以上（広島市への搬出を除く）を当院で受け入れている。
- ・時間外の小児救急は舟入市民病院（広島市）が受け入れている。
- ・令和2年に廿日市休日夜間急患センターを開設し、市内の休日夜間の初期救急医療を広く担っている。
- ・特に、緊急性の高い脳卒中、急性心筋梗塞をはじめとした急性期医療については対応可能な医療機関が限られていることから、院内での病床利用の効率化を図るとともに、近隣の回復期や慢性期を担う医療機関との連携を強化することで、常に受け入れ可能な体制の確保が求められている。

(3) 地域完結型医療の提供、地域医療の課題

- ・地域包括ケアシステムを機能させるためには、高度急性期から急性期、回復期、慢性期、在宅医療へと切れ目のない医療の提供に向けた医療機関同士の連携が必要であり、また、同様に医療と介護においても制度間および施設間の連携が必要である。
- ・当医療圏のある広島西地域は広く、都市型(3)、団地型(2)、中山間地域型(2)、島しょ・沿岸部型(1)の8つの日常生活圏域があり、地理的な事情に合わせて、医療ニーズや医療資源にもそれぞれ特徴があるため市町主体の取り組みを推進することが必要である。
- ・今後、高齢者人口の増加に伴い、複数疾患を持つ患者や認知症患者が増加する見込みである。
- ・分娩に対応できる施設が当院の他に廿日市市内で当院を含め2施設のみであり、現状の受け入れ体制を維持していくためにも、診療体制や機能の検討が必要である。

(4) 地域における連携体制の整備

- ・医療機関で医療情報のネットワーク化が進められているが、今後、医療DXが政府主導で進められていく中、診療情報の共有が促進され、より広範なネットワークの構築が可能になることから、デジタル化に即した具体的な医療介護連携を模索する必要がある。

(5) 医療ニーズに対応した施設、設備

- ・診療科によっては手術ニーズが供給側を上回ることもあり、手術を速やかに実施できない状況が発生している。また、救急患者の緊急手術対応も困難なケースがあり、広島市内等へ患者を搬送せざるを得ない場合がある。
- ・がん診療連携拠点病院として、手術・化学療法・放射線治療を行うことは当然ながら最近ではがんゲノム医療についてはニーズが高まっていることから患者の状況に応じて様々な治療の選択肢を設けておく必要がある。

- ・診察室・面談室でのプライバシー保護や院内通路、各種部門でのユニバーサルデザインへの配慮が求められている。
- ・制度的にも技術的にもオンライン診療が可能となっていることから、官民一体となってその普及に努め、へき地などの医療難民を減らす取り組みも今後の課題である。

(6) 災害医療の提供体制の整備

- ・当該地域は芸陽地震や南海トラフ地震の発生や、それに伴う津波災害等の二次災害の発生が危惧されている状況にある。
- ・東日本大震災や熊本地震などの大規模災害の発生を受け、近年全国的に病院の耐震化対策の重要性が高まっている。
- ・最近では新型コロナウイルス感染症のような新興感染症についても災害クラスの対応が求められることもあり、様々な対応方法を検討していく必要がある。

(7) 在宅医療と介護との連携

- ・高齢化に伴い、患者の増加が見込まれる中で、医療費、医療資源の適正化のためには、病院の機能分化と連携だけでなく、急性期、回復期の治療を終えた患者が、できるだけ住み慣れた地域で生活しながら療養するための在宅医療の充実が求められている。
- ・今後、医療と介護の境界線がますます流動化し、これまで以上に、住み慣れた地域で必要な医療と介護サービスが継続的・一体的に受けられる体制を構築していくことが課題となっている。
- ・急性期病院においても、地域包括ケアシステムの構築に向けて、回復期、慢性期・在宅を担う後方機関への転院や在宅復帰に向けたシームレスな連携を促進するための、積極的な関与が一層求められている。
- ・コンパクトシティの実現に向けて、「地域医療拠点等整備事業」では廿日市市が整備予定する事業として、当院の隣地へ在宅診療ステーションなど福祉機能の整備が進んでいる。また、地域サービス機能として、地域包括支援センターや行政窓口機能などの整備も進んでいる。
- ・当院の医療福祉支援センターでは、訪問看護と居宅介護のほか、入院患者に対して他の医療機関への転院や在宅復帰などに向けたサポートを実施している。
- ・行政と医療が協働するコンパクトシティの実現に向けて、廿日市市・当院が実施する事業をサービス利用者である地域住民の立場で、提供体制も含め、どのように連携していくかが課題となっている。

(8) 疾病予防機能

- ・がん、急性心筋梗塞、脳卒中の3大死因や糖尿病は、いずれも加齢や生活習慣を起因とするものであり、高齢化が進む中、日頃から、食生活や運動等の生活習慣の改善、定期的な健康診断等による早期発見・早期治療が今後ますます重要となっている。
- ・手術前にリハビリテーションを実施する、所謂「予防的リハビリテーション」の実施にも力を入れている。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

(1) 高度医療の充実

- ・県西部の基幹病院として、引き続き、最良で最善の高度先進医療を提供する。
- ・地域救命救急センター、糖尿病センター、内視鏡センターなどの先進医療の拡充とともに、大学病院との共同研究を行い先進医療の発信拠点となることを目指す。

- ・地域の高齢化に伴い、増加が見込まれる心・血管疾患、脳血管疾患、各種がん疾患に対する医療需要への対応と治療方法の充実が重要課題である。特に、がん医療については、がん診療連携拠点病院として地域の中心的な役割を担っている。これら増加が見込まれる地域医療需要に適用できるよう、体制及び治療方法の充実に向けた取り組みを推進する。
- ・令和6年の新棟と手術室が完成し最新の医療機器も整備し高度医療への取り組みを加速している。また、令和7年からは既存棟の大幅改修を行い、さらなる充実を図る。

(2) 救急医療、へき地医療への対応

- ・住民の期待が大きい救急医療については、緊急手術の増加を見越して、手術室の拡充を図り、引き続き地域救命救急センターとして地域へ貢献する。
- ・地域救命救急センターと廿日市休日夜間急患センターを運営し、機能的連携を図ることで、一次から二次、三次までのER型救急医療を提供できるような受入体制を確保する。
- ・救急医療に対する地域住民のアクセスの改善を図るとともに、地域住民のみならず救急医療に従事する医療関係者、救急隊員なども安心かつ安全な救急医療を提供できる環境を構築する。
- ・小児救急に関しては、時間内については対応しているが、時間外の多くは市外の舟入病院が診療を担当している。時間外における小児救急のなかでも、一次救急については対応するように、関係機関との協議を行っているが、実現は難しい状況である。
- ・廿日市市北部の山間地域あるいは南部の島嶼地域の迅速な患者搬送、脳卒中や急性心筋梗塞などの発症後の迅速な対応が求められる疾患を見据え、令和6年度完成した新棟にはヘリポートを設置し、広範囲な救急医療への対応を行っている。

(3) 地域医療支援

- ・地域完結型医療提供体制の構築に向けて、各診療領域における専門性の発揮や横断的な診療連携によるチーム医療の推進により、引き続き幅広い診療領域に対応した医療を提供していく。
- ・地域において今後、医療提供体制が課題となる分娩機能や、地域の健康課題となっている糖尿病対策など、地域で不足または課題となっている診療領域については、地域内の他の医療機関などと引き続き綿密な連携を図りながら、安心安全な医療提供体制の確保と、地域の健康水準の向上に努める。また、地域完結型医療提供体制の構築に向けて、当院と地域の医療機関との更なる連携の強化が求められている。患者の紹介・逆紹介だけでなく、日常的な意見交換や交流の場づくりを通じて、地域の医療機関や医師会との連携を一層深めていく。

(4) 災害拠点病院としての機能

- ・災害拠点病院として、災害時においても安心して医療提供ができる基盤を整備するため、新しく整備した新棟は耐震性能が高い建物構造とし、多数の傷病者の受け入れに対応できるスペース・設備などを整備した。
- ・大規模災害時に患者を受け入れられるようヘリポートを設置した。
- ・発生時に被災地への派遣対応が可能である。大規模災害時等に迅速な救護活動を実施できるよう、引き続きDMATの体制強化に努める。
- ・新型コロナウイルス感染症のような新興感染症への対応については、コロナ禍にて蓄積したノウハウや進めた設備整備により対応可能な範囲を拡大していく。

(5) 在宅医療と介護の連携

- ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療・介護・福祉・保健機能の一体整備を図り、地域住民の視点でシームレスな連携を目指した先進的な取り組みが進められている。
- ・行政と医療が協働するコンパクトシティの実現に向けて、廿日市市が実施する事業と、当院の医療福祉支援センターが有する機能の効果的な連携（体制面・施設面）により、地域住民などが利用しやすいワンストップサービスを提供する。
- ・入院医療と在宅医療、医療と介護の連携強化のため、医療機関と市（地域包括支援センター）との連携体制の強化を図る。
- ・訪問看護ステーション、居宅介護事業所等の提供サービスのさらなる質の向上を推進する廿日市市の特徴的な活動である専門職ネットワーク組織「廿日市市五師士会」による医療・介護・予防・住居・生活支援をつなぐ事業を推進する。
- ・在宅医療支援拠点の整備、在宅医療推進医の育成、訪問看護師の育成を支援する。
- ・在宅療養診療所の機能強化を推進し、関係機関と連携して患者の急変に対応できる体制の整備と関係医療従事者の負担軽減を図る。
- ・厚生労働省の施策では、地域がん診療拠点病院としての大きな役割の1つとして、緩和ケア医療の充実が求められている。自宅での緩和ケアを希望する患者のため、病院・診療所（在宅療養支援病院・診療所など）、介護保険事業症などの連携による、在宅緩和ケア体制の充実を推進する。

(6) 疾病予防機能の充実

- ・生活習慣、高齢化を原因とする疾患が増加する中、日常的な健康管理と健康のチェック、疾病の早期発見のための健康診断が重要となっている。
- ・現在、当院が設置している健康管理センターでは、全国健康保険協会制度を利用した職員健診を中心に実施している。センターの拡充を図ることにより、巡回健診として医師会と連携し「あいプラザ」「さえき文化センター」などで実施している住民健診、職員健診を受診者が受診日を自由に指定できるよう利便性の向上を図るとともに施設内健診にて受入れることにより、廿日市市の健診受診率の向上に寄与する。
- ・二次健診の更なる充実を図るとともに、健診結果で異常が見つかった受診者を早期治療につなげられるような取り組みを進める。
- ・人間ドックについては、脳ドックや膝ドックなど、メニューの充実を図り、さまざまなニーズに対応できるような環境を整備する。
- ・今後の高齢化の進展に伴い、加齢により身体機能が低下した患者の増加が見込まれている。そのため、がん患者等を中心に、手術による各種身体機能の低下に備え、手術前に筋力トレーニングを実施する予防的リハビリテーションの拡充に取り組む。

② 今後持つべき病床機能

当院は引き続き高度急性期、急性期医療を中心に地域における役割を果たす。

③ 新興感染症等対応について

新型コロナウイルス感染症に関しては、致死率や重症化率が低いことから、感染症分類の変更後において、その重症度や入院主訴となるその他の疾患の状況に応じた対応をとることとしている。

③ 働き方改革への対応について

- ・ 救急・集中治療科についてはB水準、それ以外はA水準を進める予定である。タスクシェア・シフトなど他職種との連携を密に実施しなければ基準を超過する可能性もあるためPDCAサイクルにて改善を継続していく

④ 建物の建替え、改修、高額医療機器の購入について

- ・ 令和6年度に新棟完成（8階建て、屋上にヘリポートあり）
- ・ 令和7～8年度に既存棟（西棟・東棟）を改修予定

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (令和4年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	260	→	236
急性期	271		224
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	531		460

※高度急性期＝西5・西8・南6・南7・ICU・HCU

<具体的な方針及び整備計画>

・年次スケジュール

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2022年度	○自施設における合意形成に向けた協議		<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">保健医療計画見直し</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">第8次保健医療計画</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">医師の働き方改革</div> </div>
2023年度		○3月新棟竣工	
2024年度		○5月新棟病棟稼働 ○6月新棟全体稼働	
2025年度		○既存棟改修工事開始	

【4. その他】
(自由記載)

特に無し。

独立行政法人国立病院機構
広島西医療センター
公的医療機関等2025プラン

令和7年4月 策定

【広島西医療センターの基本情報】

医療機関名：独立行政法人国立病院機構広島西医療センター

開設主体：独立行政法人国立病院機構

所在地：広島県大竹市玖波4丁目1番1号

許可病床数：440床
(病床の種別) 一般

(病床機能別) 急性期 150床 回復期 50床 慢性期 240床

稼働病床数：440床
(病床の種別) 一般

(病床機能別) 急性期 150床 回復期 50床 慢性期 240床

診療科目：内科、*精神科、脳神経内科、血液内科、糖尿病・内分泌・代謝内科
呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、腎臓内科、総合診療科
小児科、外科、整形外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科
耳鼻いんこう科、放射線科、病理診断科、麻酔科、*アレルギー科
*リウマチ科、リハビリテーション科、歯科
(*は休診中 総合診療科、病理診断科は、院内標榜)

職員数：676人(令和7年4月1日現在)

【内訳】	医師	常勤	53人	非常勤	1人
	看護師	常勤	379人	非常勤	14人
	コメディカル	常勤	76人	非常勤	5人
	その他	常勤	60人	非常勤	88人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

○ 将来人口推計等

広島西保健医療圏における将来推計人口は、2025年の137,126人から2030年には132,560人へ、2040年には122,102人へ、2050年には111,195人まで減少する。

また、65歳以上の高齢者人口は2040年までほぼ横ばいで以後下がり始めるが、地域人口に対する割合は上がり続けている。

	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総人口①	140,492	137,126	132,560	127,484	122,102	116,545	111,195
65歳以上人口②	44,552	45,822	45,570	45,313	46,000	45,045	43,926
地域人口に対する割合(②/①)	31.7%	33.4%	34.4%	35.5%	37.7%	38.7%	39.5%
75歳以上人口③	22,350	26,772	28,814	28,940	27,894	27,150	27,998
地域人口に対する割合(③/①)	15.9%	19.5%	21.7%	22.7%	22.8%	23.3%	25.2%

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（令和5年推計）

○ 医療需要の推移

厚生労働省の令和5年患者調査による広島県の患者受療率と将来人口推計から試算した将来推計入院患者数の総数は、2025年以降も増加するが2035年をピークに減少に転じる見込みである。

広島西圏域 将来推計入院患者	患者推計(人/日)						
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総数	1,526	1,613	1,678	1,748	1,738	1,673	1,625
I 感染症及び寄生虫症	17	19	19	21	21	20	19
II 新生物<腫瘍>	159	165	167	164	161	156	153
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	7	7	7	7	7	7	7
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	37	40	42	45	45	43	42
V 精神及び行動の障害	300	303	302	297	289	278	267
VI 神経系の疾患	163	175	184	193	192	185	180
VII 眼及び付属器の疾患	7	7	7	8	8	7	7
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2	2	2	2	2	2	2
IX 循環器系の疾患	204	221	236	255	257	247	240
X 呼吸器系の疾患	97	107	115	126	127	122	119
XI 消化器系の疾患	70	74	78	81	80	77	75
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	13	14	14	16	16	15	15
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	95	102	105	107	106	103	100
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	88	94	99	103	103	100	98
XV 妊娠、分娩及び産じょく	11	10	10	9	9	8	8
XVI 周産期に発生した病態	7	6	6	6	5	5	5
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	7	6	6	6	5	5	5
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	22	24	26	28	29	28	27
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	194	209	223	242	244	235	227
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	9	9	10	10	10	9	9
XXII 特殊目的用コード	17	19	20	22	22	21	20
(悪性新生物<腫瘍>) (再掲)	140	147	148	146	144	140	137
糖尿病	16	18	18	19	19	18	18
急性心筋梗塞 ※	4	5	5	5	5	5	4
脳梗塞	76	83	88	95	95	92	90

患者数:患者調査の受療率(都道府県別)×医療圏内の人口で算出

※都道府県別の疾病小分類がないため全国データより算出

○ 医療提供体制の現状

【医療機関数・病床数(病院)】

区分	病院施設数		病院病床数				
	一般病院	精神科病院	一般病床	療養病床	精神病床		
広島西	13	12	1	2,376	1,127	773	476

※出典:「医療施設調査」(令和5年)

【医療機関数・病床数（一般診療所数）】

区分	施設数	病床数				
		有床診療所	無床診療所	一般病床	療養病床	
広島西		4	120	54	48	6

※出典：「医療施設調査」（令和5年）

○ 医療機能別の状況

地域医療構想による広島西圏域の必要病床数と令和6年度の病床機能報告を比較すると、高度急性期114床、急性期99床、慢性期444床、現状の方が多く、回復期は、280床少なくなっている。

また、レセプト算定件数による流入率・流出率が他圏域と比較すると高く、中でも慢性期の流入率と回復期の流出率が高い状況にある。

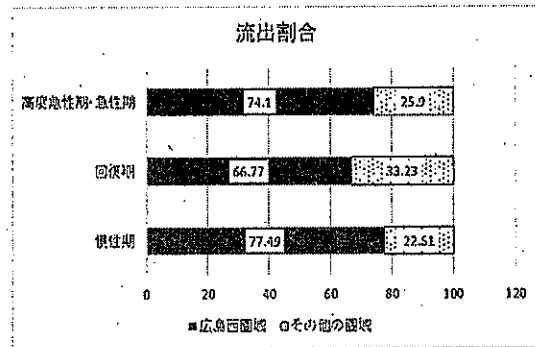
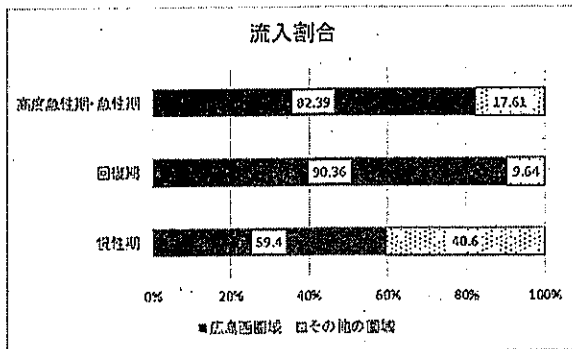
慢性期の流入率には、筋ジストロフィー患者や重度障害児・者を県内全域から受け入れている病床が約300床あることが影響しており、医療提供体制を検討する際にはこの点に考慮が必要である。

【機能別病床数】

区分	必要病床数 (令和7年)	病床機能報告 (令和6年度) ※	差引
高度急性期	156	270	114
急性期	410	509	99
回復期	515	235	▲280
慢性期	478	922	444
計	1,559	1,936	377

※休床18床を除く。

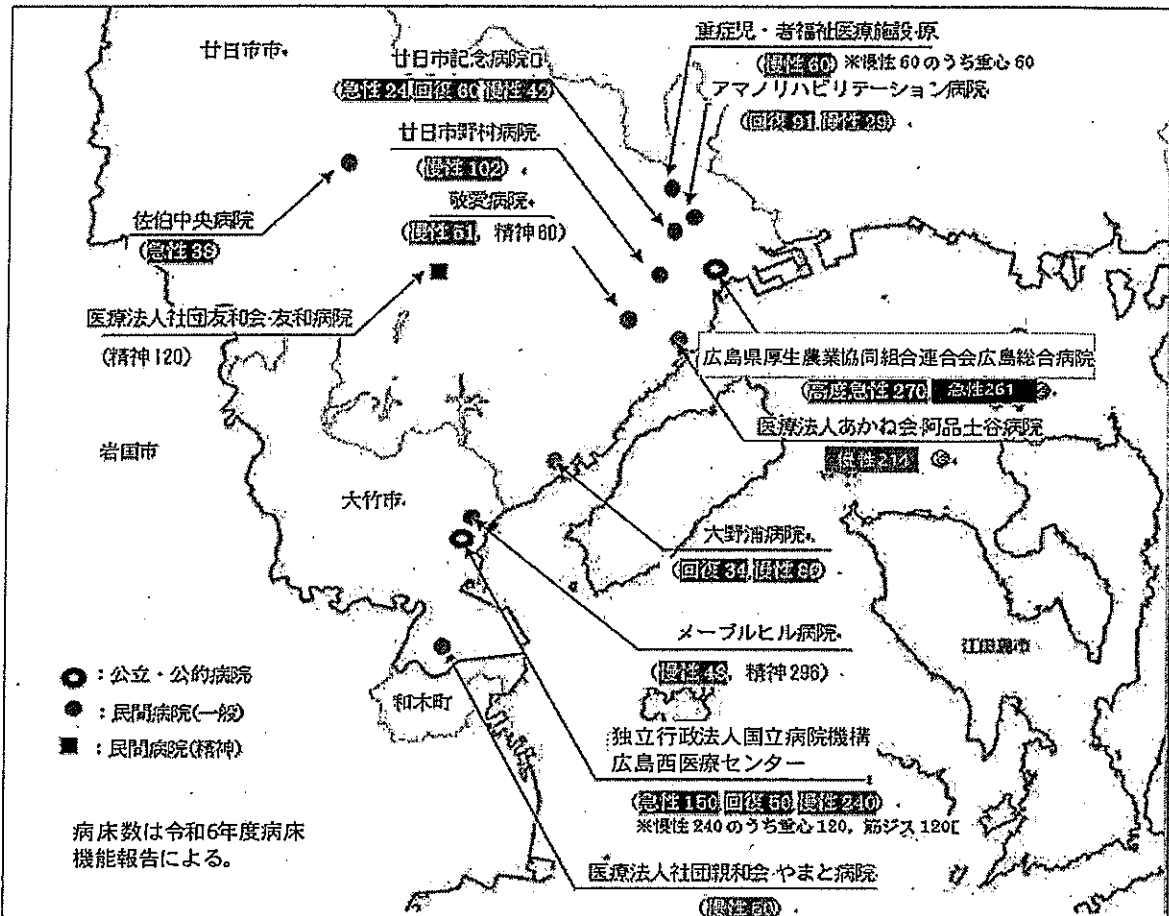
【流入・流出の状況】



流入割合は、レセプトデータにより広島西圏域に所在する医療機関に入院した人の住所を医療機能別に広島西圏域とその他の圏域に分けたもの
 流出割合は、レセプトデータにより住所が広島西圏域の人の入院した医療機関の所在地を医療機能別に広島西圏域とその他の圏域に分けたもの

医療・介護・保健データ総合分析システムによる分析（令和2年度データ）

【広島西保健医療圏の病院位置図】



② 構想区域の課題

○ 医療機能別の病床

高度急性期・急性期は、棲み分けが進んでいる疾病については周辺地域の医療機関と引き続き連携を進めるとともに、広島保健医療圏に新たな整備が検討されている「高度医療・人材育成拠点」の影響を考慮しながら、脳卒中領域など圏域内での速やかな対応が必須の高度医療や救命救急体制を強化する必要がある。

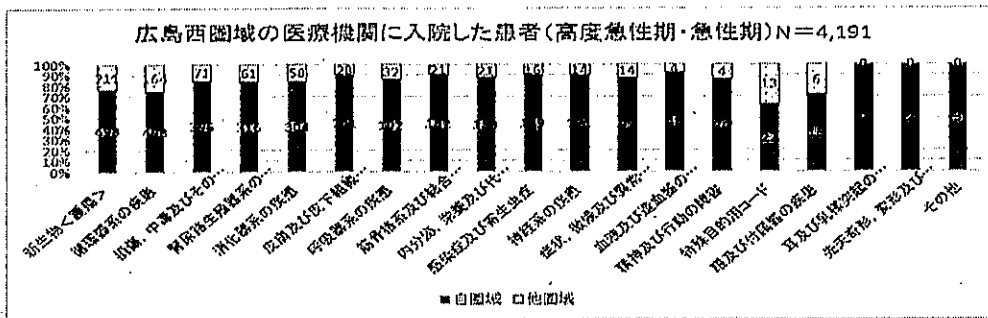
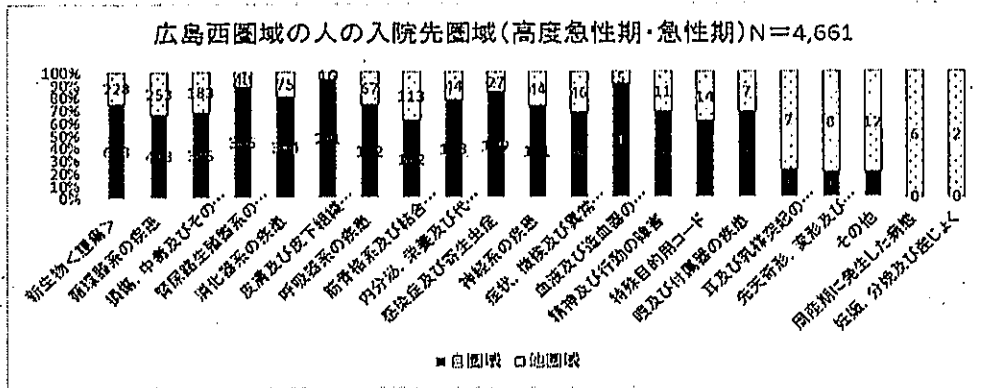
回復期は、広島西保健医療圏域の住民の入院レセプト4,014件のうち、広島西保健医療圏域の医療機関の入院レセプトは2,966件であり病床の不足が推測されることから、病床の確保が課題となっている。

○ 人材の確保

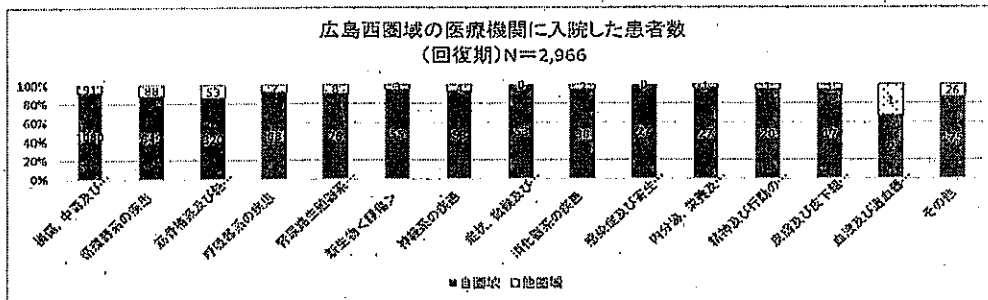
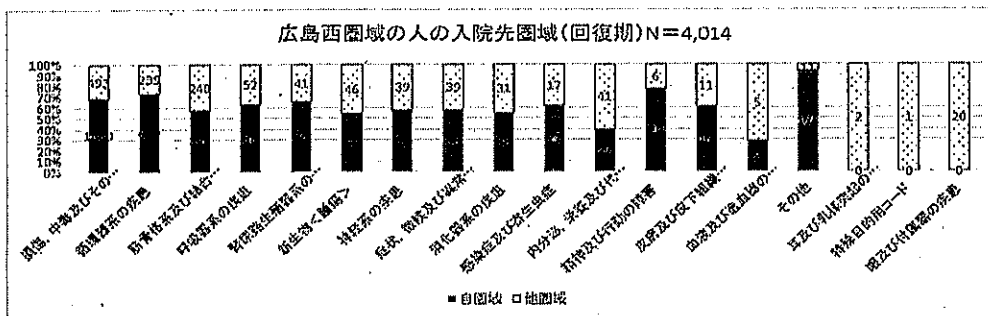
医療需要は2035年まで増加する見込みである一方で、生産年齢人口の減少に伴い医療人材の確保が困難になっている。

また、2024年（令和6年）から医師の時間外規制が開始されており、医師の働き方改革への対応を着実に進める必要がある。

【高度急性期・急性期】



【回復期】



広島西圏域の人の入院先圏域は、レセプトデータにより住所地在広島西圏域の人の入院した医療機関の所在地を広島西圏域とその他の圏域に分けたもの
 広島西圏域の医療機関に入院した患者数は、レセプトデータにより広島西圏域の医療機関に入院した人の住所地在広島西圏域とその他の圏域に分けたもの

医療・介護・保健データ総合分析システムによる分析(令和2年度データ)

③ 自施設の現状

当院は、広島西保健医療圏において、がん、筋骨格疾患、血液・造血器疾患の急性期の医療機能及び、神経・筋難病、重症心身障害児（者）の政策医療を担っている。令和3年10月より人工透析センターを開設し、透析導入や管理する患者が増えている。また、広島西保健医療圏の中核病院として、地域医療支援病院、災害拠点病院、救急告知病院、へき地医療拠点病院、難病医療拠点病院に加え、令和6年4月からは紹介受診重点医療機関、広島県糖尿病診療中核病院の指定医療機関となっており、地域社会に必要とされる医療を提供している

神経・筋難病、重症心身障害児（者）については、長期入院患者のみならずレスパイト入院等も含め幅広いサービスを提供している。

在宅関連については、平成26年5月に在宅療養後方支援病院の施設基準を取得し、市・医師会：在宅医療担当医・地域包括支援センター等と連携して、療養している患者や家族が安心して自宅で暮らせるように支援している。また、健診・人間ドックの受け入れ等、地域住民の疾病予防ならびに健康増進に努めている。

「患者さんと共に」が当院の理念であり、高度な医療は元より地域に求められる一般急性期医療、社会に求められる政策医療の両面において、良質で安全な医療を安定的かつ継続的に提供可能とするために注力している。

日々、医療の質の向上のため研鑽し、患者さんのためによりよい医療を提供することを使命と考えている。

【当院の診療実績等】

○届出入院基本料	急性期	急性期一般入院基本料	2	10:1	150床
	回復期	障害者施設等入院基本料		7:1	50床
	慢性期	障害者施設等入院基本料		7:1	240床
		合計			440床

○平均在院日数	急性期	15.9日（令和6年度実績）
	回復期	38.7日（令和6年度実績）

○病床利用率	急性期	88.5%（令和6年度実績）
	回復期	86.6%（令和6年度実績）
	慢性期	90.0%（令和6年度実績）

○救急医療 救急搬送受入件数 年間 1,325件（令和6年度実績）

○災害医療 DMATを保有し、平成26年 広島市豪雨土砂災害に派遣。

○新興感染症等への対応

- ・広島県と医療措置協定を締結、第一種及び第二種協定指定医療機関として指定。
（西2病棟に2床の入院病床を確保。）
- ・コロナ感染症後の患者受入等の後方支援。
- ・コロナウイルス感染症対応のため、東京・大阪方面の病院へ医師、看護師を派遣。
- ・発熱外来、コロナワクチン集団接種。
- ・外部職域接種への援助・協力。

④ 自施設の課題

在宅療養後方支援病院としては、登録患者（8医療機関）56名（令和7年4月現在）であるが、当機能の更なる充実を図る必要がある。

地域完結型の医療を提供するためには、強固な病診連携が必要となってくる。そのため、当院が中心となり在宅医療推進委員会等の開催により、地域の在宅支援施設等の負担軽減等を検討していく必要がある。

当院は地域医療支援病院として広島西保健医療圏の医院・病院を支援する立場であり、地域医療機関との連携を推進するため、昨年より地域医療連携の集いを開催している。今後、どのように地域の病院と診療分野の棲み分けを進め、得意分野に特化した医療を提供し、地域のニーズに応えていくかが課題である。

広島西保健医療圏の地域医療支援病院は、当院と廿日市市にあるJA広島総合病院であるが、それぞれ異なる診療分野を得意としており、すでに専門性や診療分野の面で棲み分けができています。

まずは、JA広島総合病院との連携を強化し、そのうえで地域の医療機関を巻き込んで連携を深めることができれば、広島西保健医療圏及び岩国保健医療圏東部の医療需要に応えられるのではないかと考えており、将来的な実現に向け検討していきたい。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

基本的には、現状の機能（がん、筋骨格疾患、血液・造血器疾患の急性期の医療機能及び、神経・筋難病、重症心身障害児の政策医療）を維持していくとともに、人工透析センターを活用することにより地域の人工透析患者対応や血液浄化療法等に貢献する。

また、在宅医療に関しては、在宅療養後方支援病院の施設基準を取得している。今後も市・医師会・在宅医療担当医・地域包括支援センター等との連携を更に強化し、安心して自宅で暮らせるように支援していく。

② 今後持つべき病床機能

筋ジスを含む神経・筋難病患者に対する医療については、広島西保健医療圏のみならず県内外から広く患者を受け入れており、拠点病院として早期診断・レスパイトから長期療養に係る医療を提供する慢性期機能を維持する。

重症心身障害児（者）に対する医療については、広島西保健医療圏のみならず県内外から広く患者を受け入れており、今後は、ポストNICUへの対応（検討）も含めレスパイトから長期療養に係る医療を提供する慢性期機能を維持する。

一般（急性期）については、広島西保健医療圏において、がん、筋骨格疾患、血液・造血器疾患の急性期の医療機能を担っており、病床利用率も88.5%（令和6年度実績）となっているため、今後も急性期病床は現状の150床を維持する。

③ 新興感染症等対応について

神経・筋難病、重症心身障害児（者）の受入れに対応する。

④ 働き方改革への対応について

当院は、A水準のままでも現行の医療提供体制を確保できる。

⑤ 建物の建替え、改修、高額医療機器の購入について

令和5年5月 MRI更新（共同利用有）
令和7年2月 サービス棟耐震改修整備工事
令和7年3月 ガンマカメラ更新
令和7年3月 若葉病棟感染症対策整備工事
令和7年6月 冷温水発生装置更新工事
令和7年6月 透析個室追加改修工事

⑥ その他見直すべき点

特になし。現状の診療体制を今後も維持していく。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～⑥を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (令和4年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	150		150
回復期	50		50
慢性期	240		240
(合計)	440		440

<年次スケジュール(記載イメージ)>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2022年度			<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2年間でプラン(対応方針)の策定や見直し</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">保健医療計画見直し</div> </div>
2023年度			
2024年度			<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">第8次保健医療計画</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">医師の働き方改革</div> </div>
2025年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床利用率：急性期 90%、回復期 90%、慢性期 90%
- ・ 手術件数：1,200件/年
- ・ 紹介率：90%
- ・ 逆紹介率：130%

経営に関する項目*

- ・ 修正人件費率：80%以内

*地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

廿日市記念病院 2025プラン

令和7年4月作成

項目	
病院名	社会医療法人 清風会 廿日市記念病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	126床
・高度急性期	0床
・急性期	24床(緩和ケア)
・回復期	60床
・慢性期	42床
・休床	0床
R7.9.30現在の予定病床数(総数)	126床
・高度急性期	0床
・急性期	38床(緩和ケア)
・回復期	60床
・慢性期	28床
・休床	0床
職員数(令和7年4月1日現在)	医師(常勤8)、薬剤師(常勤3)、看護師(常勤50)、療法士(常勤51)ほか
現在(令和7年4月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和6年度実績)	<p>《入院》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア病棟(入院料2、在院日数58.5日、稼働率74.0%) ・回復期リハビリ病棟(入院料1、在院日数77.8日、稼働率93.8%) ・療養病棟(入院料1、在院日数152.3日、稼働率81.5%) <p>《外来》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日平均30.2名(うち初診3.3)、時間外・休日:平均4.4名/月
現在(令和7年4月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん(終末期医療、療養支援)、脳卒中(急性期治療後のリハビリテーション)、在宅医療(日常生活支援:訪問リハ・通所リハ)
現在(令和7年4月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	急性期治療後の患者受入れ、発熱外来対応、ワクチン接種など
現在(令和7年4月1日現在)の他機関との連携	圏域および隣接する広島市佐伯区の医療機関と連携し、主にリハビリテーション、終末期医療(緩和ケア)を担う ※緩和ケア増床24→38床
現在(令和7年4月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医療計画、地域構想において回復期機能の不足が挙げられているが、現状の病床数や体制を維持するべきか否か、検討が必要 ・地域包括ケア病床の稼働の検討 ・圏域で唯一の緩和ケア病棟を有するが、在宅緩和ケアに取り組みに際する人員の確保
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・脳疾患を中心とする急性期治療後のリハビリテーション ・地域における終末期医療(緩和ケア) ・在宅支援(訪問リハビリ、通所リハビリ)
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	広島総合病院は、圏域内の高度急性期を担ってほしい
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん(終末期医療、療養支援)、脳卒中(急性期治療後のリハビリテーション)、在宅医療(日常生活支援:訪問リハ・通所リハ)
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	急性期治療後の患者受入れ、発熱外来対応、ワクチン接種など
R7年(2025)の他機関との連携	圏域および隣接する広島市佐伯区の医療機関と連携し、主にリハビリテーション、終末期医療(緩和ケア)を担う
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・A水準で対応 ・医療提供体制の充実、機能充実に向けた従事者の確保
建物の建替え、改修予定	・建替え、改修の予定なし
高額医療機器の購入	・2025年予定なし(2024.3 MRI更新)
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	<ul style="list-style-type: none"> ・従事者の確保(看護師、療法士など) ・自院の特徴を活かした地域症例検討や従事者研修会の開催

アマノリハビリテーション病院 2025プラン

令和7年5月作成

項目	
病院名	医療法人ハートフル アマノリハビリテーション病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	120床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	120床
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	120床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	120床
・慢性期	
・休床	
職員数(令和 7年 4月 1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 13人、非常勤 1.9人(総24人) ・薬剤師 常勤 3人、非常勤 0人(総3人) ・看護師 常勤 62人、非常勤 6.2人(総73人) ・准看護師 常勤 7人、非常勤 1.6人(総9人) ・介護福祉士 常勤 8人、非常勤 2.6人(総11人) ・介護士 常勤 4人、非常勤 0人(総4人) ・看護助手 常勤 0人、非常勤 1.7人(総2人) ・診療放射線技師 常勤 3名、非常勤 0.4人(総4人) ・理学療法士 常勤 51人、非常勤 0.3人(総53人) ・作業療法士 常勤 21人、非常勤 0.2人(総22人) ・言語聴覚士 常勤 8人、非常勤 0.4人(総9人) ・社会福祉士 常勤 5人、非常勤 0.5人(総6人) ・精神保健福祉士 常勤 1人、非常勤 0人(総1人) ・相談員 常勤 0人、非常勤 0.9人(総1人) ・管理栄養士 常勤 3人、非常勤 0人(総3人) ・栄養士 常勤 4人、非常勤 0人(総4人) ・調理師 常勤 2人、非常勤 0人(総2人) ・調理員 常勤 3人、非常勤 3.4人(総11人) ・総務事務 常勤 8人、非常勤 0人(総8人) ・医事 常勤 8人、非常勤 2.2人(総11人) ・ドライバー 常勤 0人、非常勤 0.6人(総2人) ・調剤助手 常勤 2人、非常勤 0人(総2人) ・臨床工学技士 常勤 1人 非常勤 0人(総1人) ・その他 常勤 1人 非常勤 1.3人(総5人) <p><その他, スポーツトレーナー、リハビリ補助 等> 総数 270人</p>
現在(令和 7年 4月 1日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和6年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟毎(届出入院基本料, 平均在院日数※1, 病床稼働率※2など) 入院基本料 件数 【2階病棟】 19,795(回復期18,622+療養1,173) (59.75日※) (90.39%) 【3階西病棟】 10,216(回復期9,577+療養639) (50.37日※) (90.29%) 【3階東病棟】 9,951(回復期9,798+療養153) (29.38日※) (94.01%) <p style="text-align: right;">※在院日数は直近3か月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設毎(休日に受診した患者延べ数, 夜間時間外に受診した患者延べ数, 救急車の受入れ件数など) ・休日に受診した患者延べ数 20人 ・夜間時間外に受診した患者延べ数 23人 ・救急車の受入れ件数 12人 <p>※1 平均在院日数=在棟患者延べ数(年間)/((新規入棟患者数(年間)+退棟患者数(年間))/2)</p> <p>※2 稼働率=在棟患者延べ数(年間)/(稼働病床数*365(稼働日数))</p>
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている政策医療(6疾病5事業, 在宅医療)	在宅医療の体制充実をはかる。
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	新型コロナウイルスのPCR検査(発熱外来等)、アフターコロナの患者受け入れなど

現在(令和7年4月1日現在)の他機関との連携	圏域のみでなく、広島市内、岩国市の医療センターなど、急性期を脱した患者の受入れ。主に回復期を担っている 広島市内 18病院 その他3件 西部圏域 4病院 その他9件 岩国医療センター 呉医療センター 等
現在(令和7年4月1日現在)の自施設の課題	職員の確保、施設の老朽化、水道光熱費、材料等高騰による経費の増大など。 現在構想中の広島市内の病院再編に伴い、回復期病床が増える見込みであることから、紹介患者の減少は避けられないと考えている。
R7年(2025)において地域で担う役割	・JA広島総合病院等との緊密な連携や機能分担のもとで、新病院はりハビリセンターを中心として地域における回復期機能の一翼を継続して担うほか、新たに脊椎センター、コミュニティセンターを開設する。 ・脊椎センターでは、脊椎疾患への対応を中心とした手術や救急医療などの提供体制を新たに構築していく。 ・コミュニティセンターでは、退院患者はもとより、在宅の高齢者、障がい者に対し、法人が有する各施設を活用し、医療・介護・福祉サービスを適切かつ効率的に提供することにより、より地域を支援する体制づくりを進める。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・JA広島総合病院は、圏域内の高度急性期を継続して担ってほしい。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病6事業、在宅医療)	在宅医療の体制充実をはかる。
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	従来通りの対応を継続していく(発熱外来、アフターコロナの受入等)。
R7年(2025)の他機関との連携	・新規に導入するMRI(1.5テスラ)、CT(64列)などの共同利用を進める。 ・急性期病院から「下りの救急搬送」をさらに強化するなど、引き続き主に回復期を担う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・A水準の予定である。 ・年々医師確保に困難な状態であり、何か対策を求めたい。
建物の建替え、改修予定	現在の陽光台から串戸5丁目に新築移転するため、R6(2024年)3月に着工した当院は、R7(2025年)9月に、「アマンノ病院」と改称し、療養病床を一般病床に変更するとともに従来の回復期・地域包括ケア病棟にあらたに脊椎外科の手術機能等を付加して稼働する予定
高額医療機器の購入	新病院に設置する手術室に必要な高額医療機器を購入する また新築時はMRIを導入し、併せて、老朽化しているCTも更新する
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	職員の確保に課題があり。

佐伯中央病院 2025プラン

令和7年4月作成

項目	
病院名	医療法人社団貴和会 佐伯中央病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	38
・慢性期	
・休床	
R7.9.30現在の予定病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	38
・慢性期	
・休床	
職員数(令和7年4月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 3人, 非常勤 2.9人 ・看護師 常勤 18人, 非常勤 3.0人 ・薬剤師 常勤 2人 ・理学療法士 常勤 5人
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和6年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア病棟入院料1 ・平均在院日数 36.26日, 病床稼働率 77.01% ・休日に受診した患者 143名 ・夜間時間外に受診した患者 30名 ・救急車の受入れ件数 35件
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	・糖尿病、心疾患、高血圧、在宅医療
現在(令和5年1月31日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	・発熱外来、自宅療養者(施設入所者)に対する医療の提供、後方支援、
現在(令和7年4月1日現在)の他機関との連携	・1次救急を担い、救急は他院へ紹介している。紹介した患者を自院の地域包括ケア病棟へ受入れ
現在(令和7年4月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人口減少による患者減少 ・医師、職員の雇用 ・地域で不足している、在宅、施設からの急性増悪した高齢患者の受入れ
R7年(2025)において地域で担う役割	・1次救急を担い、近隣施設・地域の患者さんの受入れ
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・JA広島総合病院は、圏域内の高度急性期を担ってほしい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	・糖尿病、心疾患、高血圧、在宅医療
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	・発熱外来、自宅療養者(施設入所者)に対する医療の提供、後方支援、
R7年(2025)の他機関との連携	・1次救急を担い、救急は他院へ紹介している。紹介した患者を自院の地域包括ケア病棟へ受入れ
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・宿日直届 ・医師の確保
建物の建替え, 改修予定	・未定
高額医療機器の購入	・未定
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	・医師、看護師等の職員確保

大野浦病院 2025プラン

令和7年4月作成

項目	
病院名	医療法人社団明和会 大野浦病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	120床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	34床
・慢性期	86床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	120床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	34床
・慢性期	86床
・休床	
職員数(令和7年4月 1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 5人, 非常勤 2.1人 ・看護師 常勤 28人, 非常勤 9.7人 ・薬剤師 常勤 0人 非常勤 2.4人
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている診療実績(6年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリテーション病棟(入院基本料1) 平均在院日数 67日 病床稼働率 89.5% ・医療療養型病床(入院基本料1) 平均在院日数 250日 病床稼働率 90.5%
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中治療後のリハビリテーション ・糖尿病の継続治療 (当院で診療可能な範囲で対応、範囲を超える場合は専門の連携医療機関へ速やかに紹介)
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期治療後の療養及びリハビリテーション
現在(令和7年4月1日現在)の他機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期(JA広島総合病院、広島西医療センター、岩国医療センター等)の治療後の継続加療(療養)及びリハビリを実施
現在(令和7年4月1日現在)の自施設の課題	急性期医療機関の在院日数短縮が進められる環境下で、医療提供の質向上、職員のスキル向上が不可欠。
R7年(2025)において地域で担う役割	急性期後の療養、リハビリテーションの提供、在宅への復帰支援。急性期非該当患者の入院受け入れ。軽症患者の救急受入(診療時間内)。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	<ul style="list-style-type: none"> ・患者情報の精度向上 ・患者、家族の要望に沿った退院先の決定(自己決定の支援)
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	当院で診療可能な範囲で対応、範囲を超える場合は連携医療機関(専門)へ速やかに紹介
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	<ul style="list-style-type: none"> ①発熱外来 ②感染症によるADL低下等、感染後の対応を実施、在宅復帰支援
R7年(2025)の他機関との連携	急性期、慢性期、在宅診療、介護事業者等 幅広く連携
R6(2024)からの働き方改革への対応について	A水準、対応済み
建物の建替え, 改修予定	建替え予定は当面なし
高額医療機器の購入	購入予定は当面なし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	<ul style="list-style-type: none"> ・連携強化のためには他医療機関機能変更等は早期に情報提供頂きたい。 ・オンライン診療

阿品土谷病院 2025プラン

令和7年4月作成

項目	
病院名	医療法人あかね会 阿品土谷病院
R7.7.1現在の病床数(総数)	214床
将	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	214床
・休床	
R7.9.30現在の予定病床数(総数)	214床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	214床
・休床	
職員数(令和 7年 4 月 1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 8人, 非常勤 5人 ・看護師 常勤 111人, 非常勤 3人 ・薬剤師 常勤5人非常勤2人 リハビリ 4人
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和6年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・届出入院基本料:療養病棟入院基本料1 病棟毎平均在院日数:A2 224日 A3W 241日 A3E 379日 B1 277日 B2 362日 病床稼働率: A2 88.0% A3W 93.4% A3E 97.2% B1 89.9% B2 87.3% 休日に受診した患者延べ数 139人 夜間時間外に受診した患者延べ数 32人 救急車の受け入れ件数 5人
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	在宅医療の一部を担っている。
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	急性期を脱した患者を受入れている。
現在(令和 7年4月1日現在)の他機関との連携	急性期を脱した患者については一部受け入れている。
現在(令和 7年4月1日現在)の自施設の課題	急性期医療を受けた後の患者の受け皿となるよう対処している。
R7年(2025)において地域で担う役割	急性期医療機関よりの受け入れる役割を担う。 ・在宅等からの急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	広島総合病院は、圏域内の高度急性期を担ってほしい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	在宅医療を拡大していきたい。
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	急性期を脱した患者を受入れる役割を担う。
R7年(2025)の他機関との連携	急性期を脱した患者の一部の受け入れを担う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	現状の医療提供体制の確保のために医師は確保に努める。
建物の建替え, 改修予定	エレベーターの改修
高額医療機器の購入	特になし。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	医師の確保

廿日市野村病院 2025プラン

令和7年4月作成

項目	
病院名	廿日市野村病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	102床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	102床
・休床	
R7.9.30現在の予定病床数(総数)	102床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	102床
・休床	
職員数(令和7年4月1日現在)	・医師 常勤3人, 非常勤4.1人・薬剤師 常勤2人, 非常勤1.2人・看護師 常勤26人, 非常勤7.8人・准看護師 常勤9人, 非常勤1.4人・看護補助 常勤19人, 非常勤2.2人・診療放射線技師 常勤1人, 非常勤0.4人・臨床検査技師 常勤2人, 非常勤1.0人・管理栄養士 常勤1人・理学療法士 常勤2名・作業療法士 常勤1人 言語聴覚士 非常勤0.1人
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和6年度実績)	別紙のとおり
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	<ul style="list-style-type: none"> ・1次救急を担い、当院に対応できる疾患においては慢性期病院だが緊急入院も受け入れている。 ・休日、夜間以外の精神科救急(外来対応)の受け入れ ・物忘れ外来、多領域の精神科(児童、思春期、発達障害、アルコール依存症など含む)対応 ・神経難病を主体とした神経内科外来、特殊疾患病棟があることから圏域内外から紹介を受ける。また、精神的な問題で生徒の相談で学校との連携や子育て世代や妊婦はネウボラなどと連携、生活福祉課や障害福祉課から相談あり。 ・精神科疾患で入院を要す場合、疾患に応じて適切な病院へ紹介、保健所から一次措置診察依頼。 ・廿日市市認知症初期集中支援チームを有するため、地域包括支援センターや民生委員、他医療機関などから相談を受け、対応困難ケースを様々な機関と連携して対応 ・災害時、DPAT派遣 ・へき地医療支援として吉和診療所から精神的な問題で困ることがあれば、いつでも電話などで対応方法や処方提案などを無料で提供している。 ・訪問診療依頼は、可能な範囲で行なう。みなしの訪問看護を行なっている。 ・在宅診療を行なっている診療所からの入院の受け入れ、当院併設施設で緊急ショートステイ(介護)受け入れ。 ・脳卒中、心血管疾患、がんは診断及び急性期以後の外来治療
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱外来及び外来治療、必要に応じて可能なときに往診、訪問診療 ・急性期を脱し、回復期へ行けない患者を受け入れる。また回復期治療を経ても在宅復帰できない患者を受け入れている。 ・病院で発生した患者は自院で対応。関連施設で発生した患者も施設内での治療や当院入院対応。
現在(令和7年4月1日現在)の他機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期、回復期病院から在宅系へ行けないケースの入院受け入れ。 ・診療所からの入院受け入れ。 ・精神疾患関係はとくに他医療機関、行政、学校、大学、企業からの外来診療依頼が多い。こども療育センターや舟入病院、小児科クリニックから年齢移行期の引継ぎの依頼あり。 ・回復期に行けない患者、回復期を経て在宅復帰できない患者の受け入れ、在宅復帰、在宅系施設、介護施設へつなぐ ・市や市民センター、社協、大学、各団体から依頼を受け、講義、講演を行なう。 ・企業の嘱託産業医、高校の学校医をおこなっている

現在(令和7年4月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・フルタイムで働ける医師、薬剤師、介護士の不足 ・在宅医療や救急医療に関心を持つ医師の不足 ・地域で不足している亜急性期医療を担う機能を整備したいが、医師の上記状況や現在の物価や診療報酬体系ではコメディカルスタッフを増員する資金力不足
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療を行なっている診療所と連携し、在宅等から急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う。 ・認知症や精神疾患、神経疾患においては、引き続き、地域だけでなく広域に対応する。 ・在宅医療と介護等の連携においては橋渡し役として今後も活動していく。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	<ul style="list-style-type: none"> ・JA広島総合病院以外の1次、2次救急病院が少ないため、地域包括ケア病床を持っている病院に高齢者救急をもう少し積極的に受け入れて頂ければありがたい。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	<ul style="list-style-type: none"> ・5疾病のうち精神疾患を担い、5事業のうち災害医療としてDPAT人材を継続して育てる。 ・在宅医療もできる範囲で対応していきたい。 ・糖尿病の外来、入院治療 ・脳卒中後、回復期等受け入れ先がない場合の受け入れ ・がん治療後の経過観察
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来、急性期を脱した患者の受け入れ。
R7年(2025)の他機関との連携	現在の状況と同様
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・A水準
建物の建替え、改修予定	・具体的な工期はまだ未定だが、建て替えて5、6年先と考えている。
高額医療機器の購入	<ul style="list-style-type: none"> ・現在なし ・共同利用はもっと積極的に広報していきたい(MRI、CT)
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	<ul style="list-style-type: none"> ・医師や役職の看護師、介護職の確保に課題あり ・医療療養病床の一部を地域包括ケア病床にしたいと考えているが、人材と実績がなく、今後未定。

【甘日市野村病院】
1 届出入院基本料

	施設全体	2病棟 慢性期機能 特殊疾患病棟 入院料1	3病棟 慢性期機能 療養病棟入院 料1	4病棟 慢性期機能 療養病棟入院 料1
2 平均在院日数				
①在棟患者延べ数	35,370	12,102	11,801	11,467
②新規入棟患者数	208	37	80	91
③退棟患者数	209	40	79	90
①/((②+③)/2)	169.64	314.34	148.44	126.71
3 病床稼働率				
①在棟患者延べ数	35,370	12,102	11,801	11,467
②稼働(許可)病床数	102	34	34	34
①/(②*365)	95.0%	97.5%	95.1%	92.4%
4 救急医療				
休日に受診した患者延べ数	15			
夜間・時間外に受診した患者延べ数	7			
救急車の受入れ件数	1			

やまと病院 2025プラン

令和7年4月作成

項目	
病院名	医療法人社団親和会 やまと病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	50床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	50床
・休床	
R7.9.30現在の予定病床数(総数)	50床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	50床
・休床	
職員数(令和7年4月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 2人, 非常勤 3人 ・看護師 常勤 8人, 非常勤 1人 ・准看護師 常勤 4人 ・薬剤師 常勤 1人 ・看護補助者 常勤 10人, 非常勤 3人 ・管理栄養士 常勤 1人 ・診療放射線技師 非常勤 1人 ・理学療法士 非常勤 1人
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・届出入院基本料 療養1 療養病棟入院料 ・平均在院日数 238.0日 ・病床稼働率 90.6% ・休日に受診した患者延べ数 0人 ・夜間時間外に受診した患者延べ数 0人 ・救急車の受入れ件数 0人
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	5疾病については、やまと病院及び併設の通所リハビリテーションにおいて他医療機関退院後のフォローをしている。また、やまと病院併設の当法人大和橋医院においてCT、MRIによる早期発見、急性期医療機関等への紹介、さらに、やまと病院併設の当法人疾病予防運動施設メッツやまとにおいて糖尿病等の生活習慣病の予防事業を行っている。5事業及び在宅医療については、大和橋医院にて在宅からの1次救急の受け入れ、近隣の老人入居施設への定期訪問診療を実施している。
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	他医療機関から紹介された医療区分2及び3を中心とした高齢者に対する入院医療を実施しており、重篤化リスクの高い患者を受け入れていることから、ワクチン接種を積極的に推進している。
現在(令和7年4月1日現在)の他機関との連携	急性期、回復期の後方支援病院として医療療養の機能を担う。
現在(令和7年4月1日現在)の自施設の課題	地域の高齢者の医療需要の減少が予測される中、さらに特色ある医療療養病床の運営に向けた体制の強化を図ること。
R7年(2025)において地域で担う役割	在宅及び高齢者施設等から急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担い、地域における医療療養機能の一翼を担う。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	現在、高度急性期医療及び急性期医療(岩国医療センター、JA広島総合病院)、急性期医療及び回復期医療(広島西医療センター)、認知症医療(メープルヒル病院)、重心・筋ジスを除く慢性期医療(大野浦病院、やまと病院)と医療資源が機能的に活用されている。令和7年の時点では当該体制の維持・向上のため、より一層の連携強化をお願いしたい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	現在(令和7年4月1日現在)と同様
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	現在(令和7年4月1日現在)と同様
R7年(2025)の他機関との連携	急性期、回復期の後方支援病院として医療療養の機能を担う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・A水準。
建物の建替え, 改修予定	・現時点において予定なし。
高額医療機器の購入	・現時点において予定なし。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	・課題は経営改善、職場環境改善(ケア、職員確保を含む)、不安要素は診療報酬の引下げ。

敬愛病院 2025プラン

令和7年4月作成

項目	
病院名	医療法人北原会 敬愛病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	51
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	51
・休床	
R7.9.30現在の予定病床数(総数)	0
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	
・休床	
職員数(令和7年4月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 2人, 非常勤 1.3人 ・看護師 常勤 26人, 非常勤 2.8人 ・准看護師 常勤 8人, 非常勤 2.9人 ・看護補助者 常勤 13人, 非常勤 3.3人 ・理学療法士 非常勤 0.9人 ・作業療法士 常勤 1人 ・薬剤師 非常勤 1.9人 ・診療放射線技師 非常勤 0.2人 ・管理栄養士 常勤 3人
現在(令和7年3月31日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和6年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・療養病棟入院料2, 平均在院日数 639.2日, 病床稼働率 78.4% ・精神15対1入院基本料, 平均在院日数 1258.5日, 病床稼働率 83.5% ・休日に受診した患者延べ数 39人 ・夜間・時間外に受診した患者延べ人数 0人 ・救急車の受入れ件数 0件
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	精神疾患患者(主に認知症患者)で在宅復帰が難しい患者を積極的に受け入れている。 令和7年8月末をもって診療を休止する予定である。
現在(令和7年4月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	病室及び医療従事者の確保ができなため、受け入れが難しい。
現在(令和7年4月1日現在)の他機関との連携	主に慢性期を担っており、急性期、回復期後の在宅復帰が難しい患者を受け入れている。 令和7年8月末をもって休診予定としており、現入院患者の転院調整を図っている。
現在(令和7年4月1日現在)の自施設の課題	・当直医師の確保
R7年(2025)において地域で担う役割	令和7年9月以降休診予定としている。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	急性期、高度急性期を担う医療機関には、専門的な検査及び治療を要する患者の受け入れを継続していただきたい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	継続して精神疾患患者(主に認知症患者)で在宅復帰が難しい患者を受け入れる。
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	病室及び医療従事者の確保ができなため、受け入れが難しい。
R7年(2025)の他機関との連携	令和7年8月末をもって休診予定としており、現入院患者の転院調整を図っている。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・当院はA水準に該当。 ・当直医師の確保が難しくなっている。その分院長が当直を担っており、負担が増している。
建物の建替え, 改修予定	建替え、回収予定なし。
高額医療機器の購入	購入の予定なし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	休診予定であるため、現入院患者の円滑な転院、休診後の職員対応を進めている。

メープルヒル病院 2025 プラン

令和7年5月作成

項目	
病院名	医療法人社団 知仁会 メープルヒル病院
R7.4.1 現在の病床数 (総数)	48
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	48
・休床	
R7.9.30 現在の予定病床数 (総数)	48
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	48
・休床	
職員数 (令和7年4月1日現在)	医師 常勤10人 非常勤7人 理学療法士 常勤5人 非常勤4人 言語聴覚士 常勤2人 看護師 常勤86人 非常勤29人 作業療法士 常勤7人 非常勤1人 薬剤師 常勤1人 非常勤4人
現在(令和7年4月1日現在),自施設の担っている診療実績(R6年度実績)	新館3階 療養病棟入院基本料(看護職員20対1,看護補助20対1) 病棟稼働率:90.6% 年間外来患者延べ数:8832人 時間外来患者延べ数:98人
現在(令和7年4月1日現在),自施設の担っている政策医療(5疾病5事業在宅医療)	精神疾患、内科慢性期疾患、認知症
現在(令和7年4月1日現在),自施設の担っている新興感染症等対応	自院にて発生した新型コロナ患者の治療、コロナ回復患者の受入れ
現在(令和7年4月1日現在)の他機関との連携	急性期病院では、広島総合病院・西医療センターから、回復期では、アマノリハビリテーション病院・大野浦病院から受入れており、慢性期を担っている。
現在(令和7年4月1日現在)の自施設の課題	・今後、地域の人口減少に伴う、医療需要の減少が見込まれ、地方病院のあり方が問われてくる。 ・生産年齢人口の減少等に伴って医療介護人材の確保が困難になっている。
R7年(2025)において地域で担う役割	・身体合併症や行動・心理症状を伴う認知症患者や精神疾患患者および内科慢性期疾患患者を受け入れ、慢性期医療を提供していく
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	急性期、高度急性期を担う他病院との連携を強化していく
R7年(2025),自施設の担っている政策医療(5疾病5事業在宅医療)	精神疾患、内科慢性期疾患、認知症を担う予定
R7年(2025),自施設の担っている新興感染症等対応	急性期を脱した患者を受入れ
R7年(2025)の他機関との連携	主に慢性期を担う
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・A水準 ・医師確保のため他病院との連携強化を検討
建物の建替え,改修予定	検討中
高額医療機器の購入	検討中
今後の自施設の課題不安要素,他医療機関との連携希望など	地域の医療需要の変化を踏まえて、今後の体制を検討する

重症児・者福祉医療施設 原 2025プラン

令和7年4月作成

項目	
病院名	重症児・者福祉医療施設原
R4.7.1現在の病床数(総数)	60床
・高度急性期	0床
・急性期	0床
・回復期	0床
・慢性期	60床
・休床	0床
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	60床
・高度急性期	0床
・急性期	0床
・回復期	0床
・慢性期	60床
・休床	0床
職員数(令和5年4月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 1人 非常勤15人 ・事務長 常勤 1人 ・統括看護長 常勤 1人 ・看護副主任 常勤 2人 ・看護師 常勤 26人 非常勤 3人 ・理学療法士及び作業療法士、言語聴覚士 常勤6人 ・公認心理師 常勤1人 ・支援員 常勤 28人 非常勤 6人 ・薬剤師 常勤 1人 非常勤 1人 ・保育士 常勤 3人 ・管理栄養士 常勤 2人 ・調理員 常勤 5人 ・相談員 常勤 2人 ・事務員 常勤 2人 ・サービス管理責任者 常勤(専従)1人 常勤(兼務)2人
(令和6年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者施設等入院基本料13対1 ・平均在院日数=(20271÷138+137)÷2=36.8 ・稼働率=20271÷(60×365)=0.93 ※1 平均在院日数=在棟患者延べ数(年間)/((新規入棟患者数(年間)+退棟患者数(年間))/2) ※2 稼働率=在棟患者延べ数(年間)/(稼働病床数*365(稼働日数))
現在(令和 年 月 日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	特になし
現在(令和7年4月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	特になし
現在(令和7年4月1日現在)の他機関との連携	当施設の利用者で急変があり当施設で対応が難しい場合、他の医療機関へお願いする場合があった。 また、鈴が峰歯科による訪問診療を定期的にお願している。
現在(令和7年4月1日現在)の自施設の課題	呼吸器が必要な方の短期入所受け入れ →施設職員が使い慣れていない呼吸器を取り扱うことになるため
R7年(2025)において地域で担う役割	・在宅やGH等で対応が難しくなった重症心身障害児・者の入所受け入れ ・短期入所の受け入れ
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	特になし
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	特になし
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	特になし
R7年(2025)の他機関との連携	鈴が峰歯科による訪問診療
R6(2024)からの働き方改革への対応について	特になし
建物の建替え、改修予定	管理棟・重心棟・障支棟建て替え中。
高額医療機器の購入	セントラルモニター2台、PCR検査機器(IDNOW)1台
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	呼吸器が必要な方の短期入所受け入れの体制整備

